

みんなに好きになってほしい本を、令和5年(2023)年1月～令和7年(2025)年12月発行の本の中から
選んでみました。手にとってページをめくってみてください。本は、市内各図書館で貸出ししています。

未就学児：5～6歳



「アフェイリア国とメイドと最高のウソ」

ジェラルディン・マコックラン／著 大谷 真弓／訳 小学館

アフェイリア国プレスト市では二ヵ月も雨が降りやまず、国民は洪水に怯えて暮らしていました。元首のマダム・スプリーマは姿をくらまし、メイドのグローリアは仕方なく彼女のかわりを務めることになります。15歳の少女が、国の最高指導者のふりをして市民のためにウソをついていくのです。政治家は情報を操作し、近郊のローズ市を爆撃すれば、自分達は助かると信じさせます。新聞もウソの記事ばかり、誰も紙面に隠された真実には気がつきません。

もし、あなたが同じ状況に置かれたら、どうしますか。溢れる情報の中から何が真実か判断することができますか。



「中三・ラブソディ」 花里 真希／著 講談社

中学最後の合唱コンクールで、季里はボヘミアン・ラブソディを歌う事になりました。指揮者は地味でおとなしい颯太です。自分の音痴を隠してきた季里は、みんなの期待に応えなきゃいけないと悩みます。そこに現れた、幻想のフレディ・マーキュリー。彼は歌を教えてくれないけれど、孤独な季里に寄り添い、背中を押します。しかし練習では颯太の秘めた情熱が空回りして、クラスには不協和音が生じます。それぞれの思いを抱いて迎える合唱コンクールの日、クラスみんなの思いは1つにまとまるのでしょうか？

颯太が深呼吸して指揮の腕を振り降ろします。

「つる子さんからの奨学金」 まはら 三桃／作 偕成社

曾祖母つるさんは御年99歳。公民館のダンス教室でセンターを張っています。ある日、高校受験を控える曾孫のわかば・樹を呼び出し、ふたりに学費を出すと言いました。しかし条件があり、いまの実力よりもひとつ上の学校を目指すことに！

わかばは受験塾の本格的な慣習に戸惑いながらも部活動との両立をこなしていきますが、成績が下がったプレッシャーから母親とけんかしてしまいます。でも母親に言いたいことを言えたおかげで自分にとって何を大切にして生きていきたいかが見えてきました。

自分の進路のセンターをみつけられない人に読んでほしい本です。



「僕の仕事はごみ清掃員。」 滝沢 秀一／著 河出書房新社

「ごみを減らしましょう」「きちんと分別しましょう」といわれていますが、あなたが捨てたごみのその後を考えたことはありますか？ この本はお笑い芸人をしながら、ごみ清掃員として働く著者が、ごみについて自分たちにできる工夫を芸人らしく教えてくれる本です。

ごみを回収するごみ清掃員としての実体験を通じて得た「ごみの出し方が自分の人生の濃縮となる」という重みのある知見は説得力があります。良い例の“美人ごみ”は生き方の美しさが反映されており、とても大切なことだと思いました。この本をきっかけにごみについて考えてみませんか？



「やなやつ改造計画」 吉野 万理子／著 あすなる書房

生徒会長に立候補することにした中学2年生の光也は、親友のヤナギに選挙対策委員を頼みますが断られてしまいます。理由は「やなやつ偏差値60」の光也が当選するはずがないから。それでも幼なじみのモリリにも協力を仰ぎ、いい人になれば生徒会長に選ばれるのでは？ と考えて3人で光也の改造計画を始めます。計画を進めるうちに多くの人と出会い、自分のフィルターを外して相手の立場に立つと、相手の心が見えてきました。「いい人」も「やなやつ」も一人の人間の中に混在していることにも気づきます。光也は生徒会長に選ばれるのでしょうか。

この本で、あなたの「いい人」「やなやつ」偏差値が変わるかも！？



「ヴィンセントさんのしごと」 乾 栄里子／文 西村 敏雄／絵 福音館書店

ヴィンセントさんはまいにちきそくたしいせいかつをしています。かれのしごとは、せかいじゅうのこどもたちからとどいたたくさんのがみをよんで、もんだいをかいけつしたり、ねがいごとをかなえたりすることです。

きょうは、ゆきがふらないみなみのしまにすむトントの「ゆきがみたい」というねがいをかなえることにします。さて、ヴィンセントさんはどうやってそのねがいをかなえるのでしょうか？

あなたもヴィンセントさんにてがみをかきたくなるよ。



「うちのピーマン」 川之上 英子／文 川之上 健／文 柴田 ケイコ／絵 アリス館

きょうのおひるは、やさしいためにきまり！ おかあさんはれいぞうこからやさいをえらびます。あ、ピーマンもいれましようね。すると「ぼくをきります？」というちいさなこえがどこからかきこえました。おやおや、さっきとりだしたピーマンです。ピーマンはまだたべられたくはありません。あのでこのででおかあさんにていこうします。でもね、おかあさん、てごわいんです。もうたべられちゃうかも。そこでピーマンがとったさいごのしゅだんは…？



「おどっているよ、わたしのて」 ジョアンナ・ケ／文 チャリーナ・マルケス／文 フラン・アルヴァレス／絵 ミレナ・イノセンシオ・ドミンゴ／訳 偕成社

となりにひっこしてきたマイちゃんかぞくは、いつもてがおどっているようにみえます。こえをださず、てやかおつきでおはなししているようです。

はじめ、わたしとマイちゃんはおたがいなにをいっているかわからないことがありましたが、マイちゃんにてのダンスをならってから、たくさんのおはなしができるようになりました。

てのダンスとは目で見ることば「手話」のことです。声をださなくても、たくさんのことをつたえ、なかよしになった2人のお話を見てください。



「おもいでいろのねこ」 PEIACO／作・絵 Gakken

ミルクはしろねこのぬいぐるみ。ぼうやがうまれたときから、いつもいっしょにいて、ふたりはとってもなかよしです。そんなあるひのこと、ぼうやにプレゼントされたのは、しろくまのぬいぐるみでした。しろくまはまっしろでとてもきれい。なのにこのふるぼけたいろのじぶんときたら。かなしくなったミルクはどうにかしてしろくまろうとしますが…。おもちゃやのおじいさんのやさしさと、ミルクとぼうやのあたたかいおもいでがつまったおはなしです。



「クジラがしんだら」

江口 絵理／文 かわさき しゅんいち／絵 藤原 義弘／監修 童心社

日のひかりがとどかない、ふかくてくらい、うみのそこ。生きものたちは、ながいあいだおなかをすかせて、じっとたべものをまっていた。

そこにおちてきた、いっとうのとしおいたマッコウクジラ。何十年もの一生をおえ、しずんできた大きなクジラのからだは、たくさんの生きものたちのごちそうになります。

ひとつのいのちがおわっても、べつのいのちがつづいていく、ふしぎでやさしいうみのせかいを、あなたものぞいてみませんか？

読書感想文を募集しています。

応募資格：呉市内に居住または呉市内の小中学校及び義務教育学校に通学する児童生徒

対象図書：このブックリストに紹介している本

募集期間：令和8年7月10日から令和8年10月10日まで

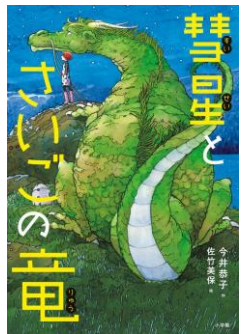
応募方法：1人2点まで可。呉市内の図書館に、お届けください。持参または郵送（当日消印有効）など

詳しくは、呉市中央図書館まで

住所：〒737-0051 呉市中央3丁目10番3号

電話：0823-21-3014

前期：小学1年生～小学4年生



「彗星とさいごの竜」 今井 恭子／作 佐竹 美保／絵 小学館

山奥に、一度も空を飛んだことのない、ひとりぼっちの泣き虫の竜がいました。ある日、人間の女の子があらわれて、竜の運命はかわります。地球めがけて飛んでくる巨大な彗星を、二人でやっつけようというのです。「あなた、竜なんだから、飛べないわけがない」そう言われると、体の奥からむくむく力がわき上がってきます。できないと思いこんでいることも、やってみればできるかもしれない。地球をすくうため、立ち上がった竜と女の子の運命は？

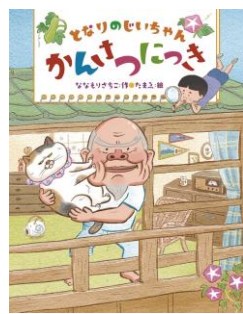
自分で考え、自分で決めた目的のためにいどむ竜の勇ましいすがたを、しっかり見とどけてください。



「せなちゃんのえくぼ」 みとみ とみ／作 藤原 ヒロコ／絵 ポプラ社

ゆうかの住むマンションに、同い年のせなちゃんがひっこしてきました。ゆうかはいっしょに登下校できる友達ができる！とワクワク。しかしせなちゃんは何を話しかけてもだまされたまま。それでもゆうかは、せなちゃんに話しかけ続け、2人のきよりをちぢめていきます。するとついに、せなちゃんのほっぺたにえくぼが…！ そんなある日、公園である事けんが起きました。よくじつ、クラスでは事けんのはん人さがしが始まり、せなちゃんがまきこまれてしまいます。

ゆうかはクラスメイトのごかいをとき、ふたたびせなちゃんのえくぼを見ることができるようか。



「となりのじいちゃんかんさつにつき」 ななもり さちこ／作 たまゑ／絵 理論社

ようたは、なつ休みのしゅくだいのためにかんさつしていたあさがおをからしてしまいました。かわりのものをさがしていると、となりのおじいさんのにわで、あさがおを見つけます。ようたは、そのあさがおをかんさつにつきにかくことにして、となりのいえへこっそりかようことにしました。すると、おじいさんがようかいのカップをほしているではありませんか。あやしい…本とうにかんさつしたほうがいいのはおじいさんかもしれません。

ようたとおじいさんの間でまきおこるできごとをとおして、正じきに伝えることや、あい手を知ることの大せつさをおしえてくれます。



「パンツのひもゆるざえもん」 森くま堂／作 カワダ クニコ／絵 国土社

今日は村をあげての祭りの日。そこにあらわれたのは、いかにもな格好をしたあやしい男。人を集めて語り始めたのは、キツキツになりたいと旅に出たしんせつでお人よしなひもが、いかにして“パンツのひもゆるざえもん”になったのか。聞くもなみだ、語るもなみだの物語。はじまり、はじまり。

ひもはキツキツになりたいとてんぐに弟子入りをしましたが、キツキツなだけではいけないのだと教わります。大切なのは自分の頭でかんがえること。むすんでほどいて、今日もしゅぎょうにはげみます。軽快な語り口調で進むおはなしは、きっと声に出してよみたくなるはず。

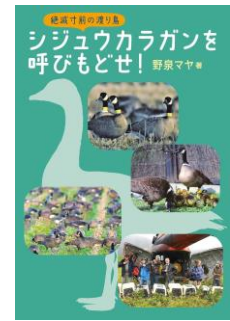


「麦ちゃんのめがね」 最上 一平／作 かつらこ／絵 新日本出版社

麦ちゃんは小学校3年生の女の子。ママにうすいすみれ色のフレームのめがねを買ってもらいました。好きな色のめがねなのに、麦ちゃんはなかなか学校でめがねをかけることができません。家でめがねをかけてかがみを見たらちがった子になったように思えて、なにかいわれるのではと不安になったのです。ところが思いきってめがねをかけてみると、ふしぎなことにクラスの子たちがまるでちがって見えてきて、麦ちゃんの毎日が変わっていきます。

一度麦ちゃんのめがねをかけてみたい。読みおわるとそんな気持ちになるお話です。ぜひ読んでみてください。

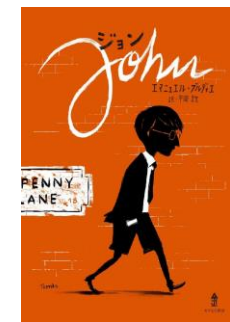
中期：小学5年生～中学1年生



「シジュウカラガンを呼びもどせ！」 野泉 マヤ／著 新日本出版社

絶滅の危機からガンを守るにはどうすればいいのか。正しい手段も解らないまま、手探りで努力し続けるのはとても難しいことでした。けれど彼らは決して諦めず、日本・アメリカ・ロシアといった国境を越えた人々の情熱と協力によって、越冬地である仙台にシジュウカラガンを呼び戻すという目標を少しずつ達成していきます。

元々ガンを減らしたのも人間ですが、一方でガンの命を守ろうとしたのもまた人間です。環境保護の大切さはもちろん、遠くの人とも世界は繋がっているという当たり前のことを思い出させてくれる、人々の努力の物語です。



「ジョン」 エマニュエル・ブルディエ／著 平岡 敦／訳 あすなろ書房

想像して、彼がまだ何者でもなかったころを。想像して、彼が初めて音楽と出会うところを。

1950年代はじめ、イギリスのリヴァプール。少年は一つのハーモニカと出会います。それは彼の人生を大きく変えた、とっておきの宝物となりました。頭に浮かんだ音を奏で、曲を演奏します。愛を知らない少年は、聴いた人すべてに愛されるような音楽を作ります。やがてそれは世界平和を歌う声になり、たくさんの人の心を動かすのでしょう。

想像して。これは彼が「ジョン・レノン」になるまでの物語。世界的ロックバンド・ビートルズの、はじまりの物語。



「そしてパンプキンマンがあらわれた」 ユ ソジョン／作 キム サンウク／絵 すんみ／訳 小学館

小学校5年生のイエジは、VRゲーム「パイキキ」に夢中。どこにでもいけて、どんなものもつくることができるから。

ある日なぞの男ヘルメットボーイに誘われ、仮想現実の中の遊び場を作ることになりました。イエジの作った遊び場は大人気となりましたが、盗作を疑われログインしづらくなります。そんな折ヘルメットボーイから新たなイベントの提案を受けます。これが危険な事件になることも知らずに。

現実をはがかりすることばかり、それでも両腕をせっせと動かして生きていくしかありません。「偽物は偽物、本物は本物なだけ」なのです。



「読書感想文が終わらない！」 額賀 滯／作 satsuki／絵 ポプラ社

夏休み、小学校の図書室を訪れた子どもたちが出会ったのは「フミちゃんとおよび」と言ってくる不思議な中学生。読書が好きじゃない「栄人」、友達関係でモヤモヤを抱える「優衣」などに、フミちゃんは読書感想文の書き方を教えてくれます。宿題の読書感想文は上手く書こうと思ってどうしても難しく考えてしまいます。フミちゃんが言うように感想文だから自分で感じて思ったことをそのまま書けばいいし、共感でも否定でも間違いはないのです。それに思ったことを書くことで考えを整理することもできます。今回は読書感想文が終わりそうな気がしてきますよ。



「不完全宣言」 林 けんじろう／著 PHP研究所

両親が離婚して、ドジで頼りない父親と一緒に暮らす小学6年生の香保。父親に似てドジな自分にも自信が持てません。

今年も香保の誕生祝いで父親の妹「ねりちゃん」が住む鎌倉をおとずれました。そこで父親とねりちゃんの会話から、離婚の原因は頼りない父親のせいだと思った香保が、親友のなくし物のぬいぐるみ「みっ太」を探しに行くことを口実に家を飛び出します。慣れない大都会での新しい出会いや冒険を通して“みっともない”を持っているのは父親や自分だけではないということに香保は気づいていきます。

誰の中にもある“みっともない”をそっとだきしめたくなる物語です。

応募規定：(1) 小学生は400字詰め原稿用紙2枚以内、中学生は400字詰め原稿用紙3枚以内とします。
(2) A4サイズ of 原稿用紙を使用してください。
(3) 原稿用紙1枚目の1行目に学校名と学年、2行目に漢字氏名と「ふりがな」、3行目はあけて、4行目に本の題名を記入し、5行目から感想文を書き始めてください。
(4) 対象学年にとらわれず、どの本でもよいです。1人2点まで可。

表彰等：(1) 小学生の部及び中学生の部
最優秀賞 各1名（賞状と図書カード5,000円分を贈呈）
優秀賞 各1名（賞状と図書カード3,000円分を贈呈）
佳作 若干名（賞状と図書カード1,000円分を贈呈）
(2) 表彰式 令和9年2月（予定）